

# 平成26年度Cライセンス審判員学科試験問題

《平成26年9月21日（日）実施》

地区名

氏名

\*問 主な注意事項について（ ）に当てはまる語句を下から選びなさい。

「国際柔道連盟試合審判規定」の主な注意事項（以下の場合、「指導」の罰則が与えられる）

- ① 両手を使って相手に組まれないようにする行為。
- ② 自身の襟を腕や手で隠す、握るなどの行為で相手が組みに行くのを（ ）する。
- ③ 袖口のピストルグリップやポケットグリップをした場合は（ ）攻撃しない場合。グリップした瞬間攻撃に移らないと「指導」。（今までは時間を与えすぎていた。これからは厳しく指導を取る）
- ④ ポケットグリップは（ ）を握った場合をいう。袖口以外の袖をポケットグリップの形で握ることは問題ない。
- ⑤ 組み手争いのなかで2回組み手を切った後、3回目に切った場合は指導。組み手を切って技を仕掛けたりする場合は問題ないが、組み手を切るだけの行為を繰り返した場合は（ ）柔道となり指導が与えられる。（3回切って指導が与えられた後にもさらに組み手を切るだけの行為をした場合には数に関係なく指導が与えられる。）
- ⑥ （ ）を使って相手の組み手を切る行為は指導。
- ⑦ 右組と左組の場合、引手を宙に浮かせて組まない場合、指導。
- ⑧ 自身の引手の手首にもう一方の手をおいて組み手を切る行為は指導。（両手を使って組み手を切ると同じ行為であると判断）
- ⑨ 片襟を持ち、その手で相手の（ ）を切る行為は指導。（両手で切る行為と判断）
- ⑩ お互いが組み手を切りあった場合、同じ行為が繰り返された場合は（ ）に指導。
- ⑪ 相手の組み手を強く（ ）行為は指導。
- ⑫ 片襟、クロスグリップ、帯を持つなどの組み手で「直ちに」（ ）しない場合は指導。（これまでは、時間的な猶予を与えすぎていた）
- ⑬ クロスグリップの状態から（ ）の内股（内股を仕掛け、ケンケンしている状態）は、本当の攻撃とはいえないので最初は「（ ）」を宣言し、2回目は「指導」。
- ⑭ 相手を（ ）腰を曲げた状態にさせる行為は押している選手に指導が与えられる。（攻撃をしないで押し倒しているだけの状態の場合）
- ⑮ 足を使って組み手を（ ）行為は指導。

## ◆ 場内外について

- ① 場内で技を掛け合うことを目的としている。意味もなく場外に出た場合は（ ）指導を与える。
- ② 片足が出た場合は直ちに攻撃するか、場内に戻らないと指導が与えられる。
- ③ 片足が出て（ ）をした場合には指導が与えられる。
- ④ 攻撃などのアクションのないまま（ ）が場外に出た場合は指導。
- ⑤ 相手を押して場外に出した場合は、押した選手に指導が与えられる。（押しているだけで攻撃をしていない場合）
- ⑥ 相手に技を掛けられて場外に出た場合は指導ではなく「（ ）」
- ⑦ 場内で始まった攻撃は、立技・寝技共に一連のアクションであれば場外に行っても（ ）される（今までと同じ解釈）。一連のアクションが続いている限りは場外での返し技等も（ ）とする。  
例:場内でケンケン内股をかけて両者が場外に出た後、受けが返し技で取りを投げた場合はスコアになる。
- ⑧ 試合者がほぼ同時に技もなく場外へ出た場合は、（ ）に指導を与える。

両手 妨害 直ちに 場内 ネガティブ 袖口部分 偽装攻撃 両者 攻撃 見せかけ

両足 待て 継続 両者 押して 切る 厳しく 釣り手 待て 有効 はたく